

あの日

私の原点

● ティスコジャパン 社長
二宮徹氏



がんを患い感じた「人生二度きり!」

2007年7月のある日、私は那覇空港に降り立った。梅雨が明けたばかりの沖縄は、とにかく暑かった。真夏の太陽が、新参者の私を容赦無く照り付けた。だからこそ「自分は生きている」と感じられるこの場所で、「生懸命生きていこう」と思った。だって「人

生二度きり!」なのだから。

36歳で起業して6年くらいが経過したある秋の日、朝から体調がすぐれなかった。とにかく体が熱く、夜中にシャツを3枚も着替えるほど汗が止まらなかつた。体の異変を感じ始めたのは、その時からだった。数日前、



抗がん剤の副作用で、全ての髪の毛が抜けた

気付いた時に1センチほどだった首の右側のしりは、いつの間にか2センチくらいになっていた。さすがに「ただ事ではない」と考えて、自宅近くの病院に行った。

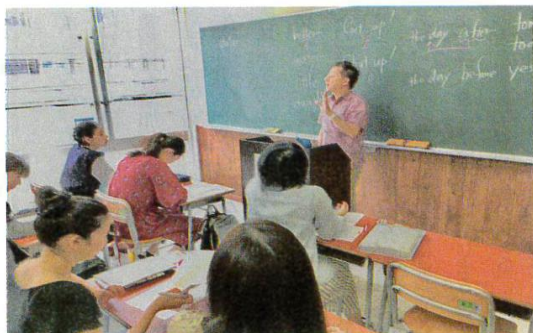
「しこりの原因は、耳下腺にばい菌でも入ったからだと思えます」。対応した女医の

言葉を聞いても、全く安心できなかった。「くと思う」という表現は自信のない証拠だからだ。処方された薬を飲んでも腫れは引くどころか、ますます大きくなった。不安が増す一方だった私は、生まれて初めてPET検査を受けた。エックス線検査の画像で、最も気になっていた首のしこりの部分は青く光っているように見えた。医師は「腫瘍の疑いがあります。おそらく良性だと思います。安心してください」と言った。医師の自信のない表現が、私の不安を増長させた。

1週間後、検査結果を聞くため再び病院を訪れた。前回と異なり、診察室の医師の表情は硬かった。「細胞は悪性でした。1日も早く摘出した方がいいです」と告げられた。病名は悪性リンパ腫、しかもステージIIだという。説明を受けている間、頭の中が真っ白になり、医師の説明が全く耳に入らなかった。「がん＝死」という恐怖が頭を覆った。現実を直視できず、しばらく待合室のベンチで人目をばからずに泣いた。帰宅してからも車の中で2時間以上泣いた。

がん告知の2日後、血液内科のあった別の病院に入院し、抗がん剤治療が始まった。初日は、特に副作用の影響は感じなかった。しかし、次の日から体に異変が出始めた。無意識に両手で頭をかくと、指の間にたくさんの髪の毛が残った。びっくりして髪の毛を引っ張ると、大量の毛が抜けた。しばらくすると、体を自由に動かすことができなくなった。

その後、抗がん剤の影響で肝機能も低下



事業のテーマは「Shift to Asia」。今も時々、教壇に立つ

運営するATMAアジア観光外国語学院の教室。昭和の教室をイメージしている



してしまい、C型肝炎を併発した。いろんな思いが頭を駆け巡り、ベッドの上で号泣した。嗚咽が止まらなかった。そんな私に看護師が寄り添い、背中をさすりながら「大丈夫ですよ」と優しく声を掛けてくれた。その声と手の温もりは、今でもはつきりと覚えている。

その後、手足などにしびれが残り、興奮による睡眠不足で精神的に不安定な日が続いた。連日の点滴と抗がん剤投与の繰り返しで、心もふさぎ込んだ。さらに医師からは「首の左側に転移したが、ステージIIまで進行している、脳の血管も狭くなっている」と告げられた。それでも回復を信じて半年間、抗がん剤治療を続け、無事退院することができた。

この闘病生活を経て、私の考えが大きく変わった。「生きた証を残そう」。そう考えた。医師からは再発の可能性も指摘されていた。死ぬつもりは毛頭ない。しかし、誰でもいつかは死が訪れる。その人生の終わりに何が残しているのか。私は「人財」を残し、事業を残し、世のため、人のために尽くしたい。そして最期は生きた証を残すと心に決めた。その場所をどこにするか悩んだ。しかし、病気になる前と同様、がむしゃらに生きようとは考えなかった。ビジネスと癒やしが両立できる場所を探した。当初、候補地としてハワイも考えたが、入った居酒屋の壁一面にあった沖繩の青い空と海の写真を見た瞬間、「ここで事業をした」と考えた。新たな事業の可能性を探るため、沖繩を訪れたのはその数日後だった。

refresh

「13年間務めるラジオのパーソナリティ」



ディスコジャパン 社長
二宮 徹

私の一番の気分転換。それは毎週月曜の午後6時50分からROKラジオで放送される番組「人生もベンチャーだ！」でパーソナリティを務めている時間である。きっかけは2007年に沖縄で事業を始めるにあたり、複数のメディアから取材を受けたことだった。私の話ぶりに興味を持っていただいたのか、ROKの担当者から番組へのゲスト出演を依頼され、事業の宣伝になればと思い、お引き受けした。その後、番組を持つことを打診され、迷うことなく引き受けた。だって「Nothing ventured, nothing gain. You Only Live Once!」（やるか、やらないか。人生一度きり!）なのだから。

当初、半年程度続けばいいかな、と考えていたが、気が付けば13年間続いている。その理由は、毎回、自由気ままに語っているからだと思う。しかし、10分という放送時間のうち私の声がラジオに乗らないのは、CMが流れる1分ちょっとだけ。持ち時間は9分弱あって、これが意外と長い。心掛けているのは「リスナーに明日の元気と勇気、活力を届ける」ことだ。「伝えたつもりが伝わっていなかった」ことがないように、マイクの先にリスナーがいるということも意識している。

語学、経済、恋愛、ゲストとのトークと、四つのテーマに沿って1週ずつ語っている。お呼びするゲストを選ぶ基準はただ1点、私が話を聞いてみたい方だ。地元の経済界や行政トップ、居酒屋で初めて会って面白かった人など幅広い。最近、なぜかリスナーからの相談が増えた。「人生逆転できる」という私のキーワードを基に回答するように努めている。